

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名 平野区
学校名 大阪市立瓜破北小学校
学校長名 松本 守隆

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・瓜破北小学校では、第6学年 57名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

今年度、国語における平均正答率は大阪市平均より16ポイント、全国平均より17.8ポイント下回っていた。算数における平均正答率も大阪市平均、全国平均ともに12ポイント下回っていた。理科における平均正答率は大阪市平均より13ポイント、全国平均より15.1ポイント下回っていた。昨年は平均正答率において、大阪市平均との差が少し狭まったが、今年度はまたひらいてしまった。

また、平均無解答率も、大阪市平均や全国平均に比べて高い割合になっているが、算数における平均無解答率は大阪市平均より3.3ポイント、全国平均より3ポイント上回り、他の教科に比べて無解答率が低い結果となっていることから、児童が比較的諦めず問題に取り組んだ姿勢がうかがえる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕大阪市平均より「我が国の言語文化に関する事項」では15.1ポイント「書くこと」の領域では19.8ポイントと共に大阪市平均より15ポイント以上下回った。「情報の扱い方に関する事項」では4.8ポイント「話すこと・聞くこと」の領域では9.1ポイント下回る程度にとどまった。特に正答率の低かったのは「読むこと」の領域で20ポイント以上下回った。また、今年度は無解答数が高く、分からないと諦めてしまう傾向が顕著に見られた。

〔算数〕「数と計算」の領域は12.9ポイント「図形」の領域は15.2ポイント「データの活用」の領域は12.6ポイント大阪市平均より下回った。「変化と関係」の領域は5.7ポイント下回る程度にとどまった。また、無解答率は国語よりは低く、問題に答えようとする意欲が感じられた。無解答率が高かった問題は、数や文字を用いて記述する問題で、文章で説明する力が必要であると考えられる。今年度は算数科を中心とした指導研究を実施しており、大阪市総合教育センターのスクールアドバイザーに授業参観、指導助言等を行っていただき、教員の指導力向上に努めている。学力向上支援チーム事業において、令和3年度に比べると今年度は算数の区分IVの割合は減少した。

〔理科〕「生命」を柱とする領域では14.3ポイント「エネルギー」を柱とする領域では14.1ポイント大阪市平均より下回ったが、「粒子」を柱とする領域では9.9ポイント下回る程度にとどまった。無解答率は、3教科の中で一番高く、結果における理由を説明したり、新たな問題を考えたりする記述式のものが無解答であった。

質問調査より

今年度も「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか」という質問に対して、肯定的に答える児童の割合は、大阪市平均にやや近い割合である。「心の天気」や「相談申告機能」を活用したり、「いじめ(いのち)について考える日」などで啓発したり、常に、いじめは許されないことを繰り返し伝えたりし、「いじめは絶対に許されない行為である」ことを継続して意識づけていく。

また、「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に対しては、肯定的に答える児童の割合が大阪市平均を上回っている。体験活動を多く取り入れたり、学習者用端末を活用した授業改善をしたり、体育科など外部講師による出前授業等を積極的に行ったりすることで、豊かな心の育成に成果が表ってきたと考えられる。

今後の取組(アクションプラン)

今年度より算数科で「基礎基本の定着・個の力を伸ばす指導法の工夫」を研究主題とし、学習の定着を図り、個の力の育成に努めていく。そのためには、今後も大阪市総合教育センターのスクールアドバイザーによる、教材研究・指導案検討・授業参観の指導助言を通して、教員のさらなる授業力向上を推進していく。また、学力向上支援チーム事業では、放課後学習を実施し、学びチーフコラボレーターにアドバイスをいただきながら、学びコラボレーターとともに、児童へのきめ細かな指導・支援が継続されている。国語科においては、表現活動を中心に自分の考えを論理的思考力を働かせて記述できる指導を実践していく。

教員の研修体制を強化し、日々の授業実践の交流を深めるなど指導力向上に努めていく。併せて、家庭・地域との連携を図りながら、教育活動を広く展開することにより、学校の教育力向上・児童の学力向上を推進していく。

【 全体の概要 】

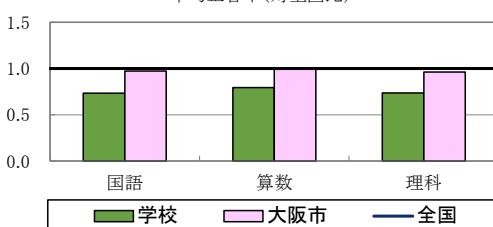
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	49	46	42
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

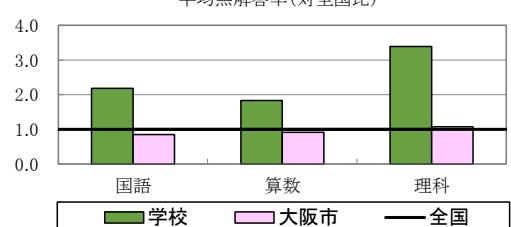
平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	7.2	6.6	9.5
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



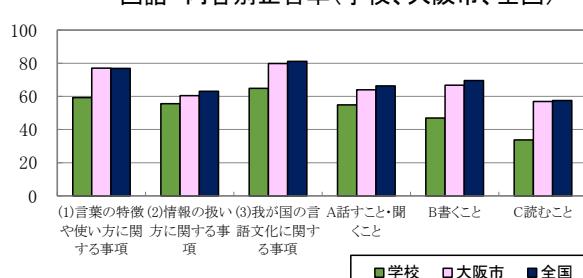
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	59.3	77.1	76.9
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	55.6	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	64.8	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	54.9	64.0	66.3
B 書くこと	3	46.9	66.7	69.5
C 読むこと	4	33.8	56.9	57.5

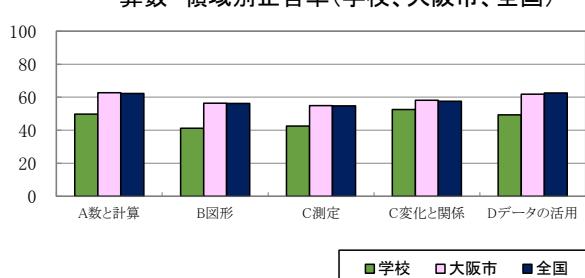
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	49.8	62.7	62.3
B 図形	4	41.2	56.4	56.2
C 測定	2	42.6	54.9	54.8
C 変化と関係	3	52.5	58.2	57.5
D データの活用	5	49.3	61.9	62.6

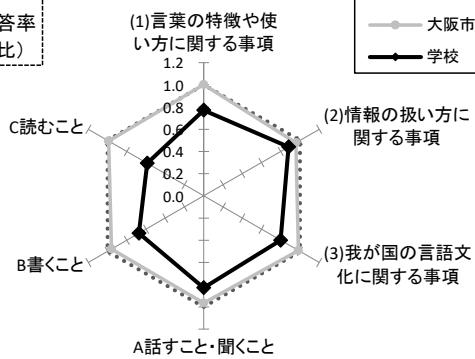
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



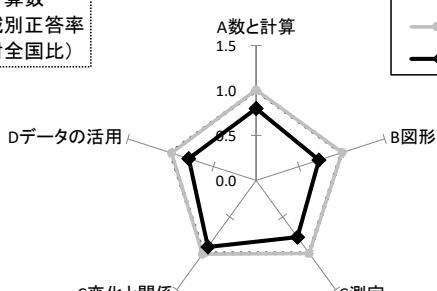
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

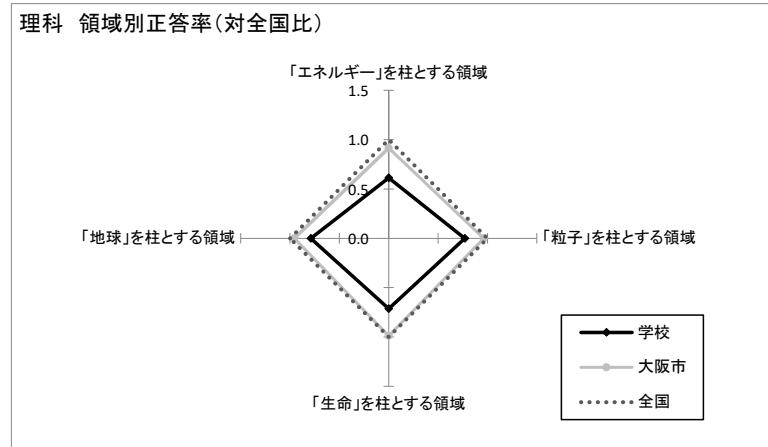
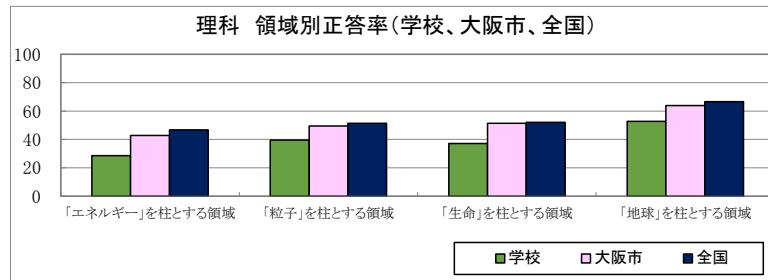


算数
領域別正答率
(対全国比)



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 区分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	28.6	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	39.6	49.5	51.4
B 区分	「生命」を 柱とする領域	4	37.1	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	52.7	63.8	66.7



児童質問より

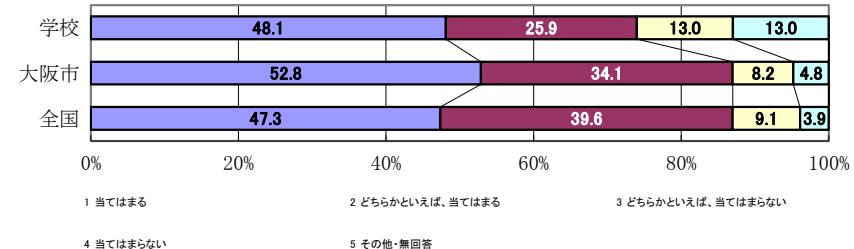
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号

質問事項

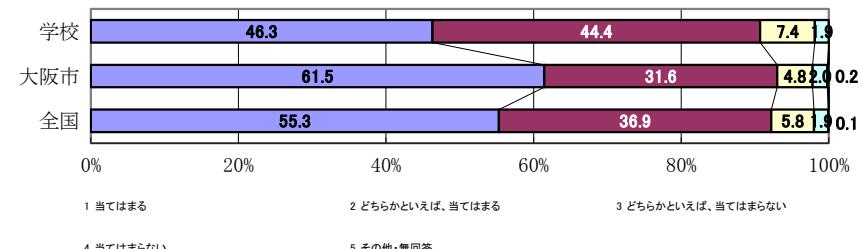
5

自分には、よいところがあると思いませんか



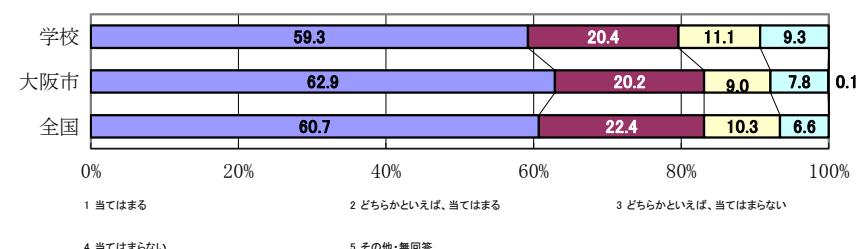
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いませんか



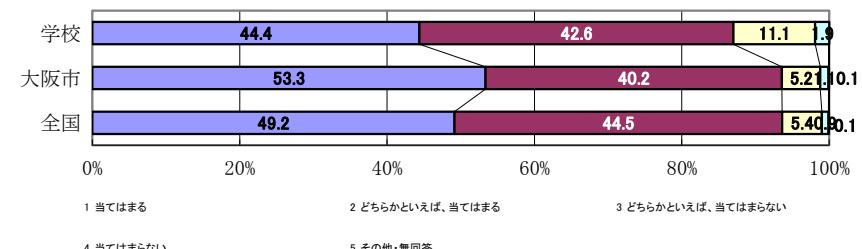
7

将来の夢や目標を持っていますか



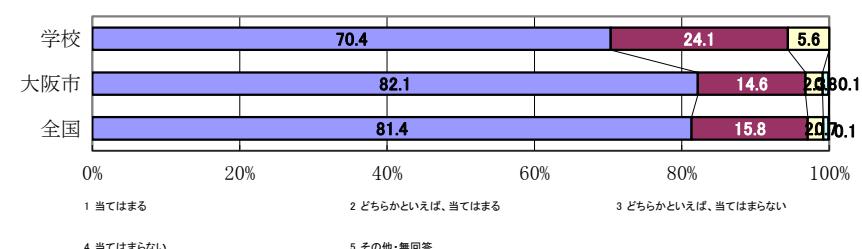
8

人が困っているときは、進んで助けていますか



9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



児童質問より

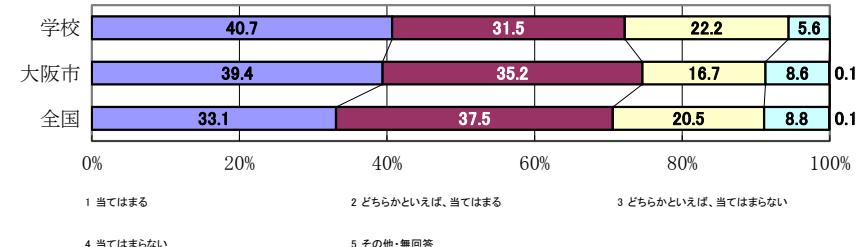
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号

質問事項

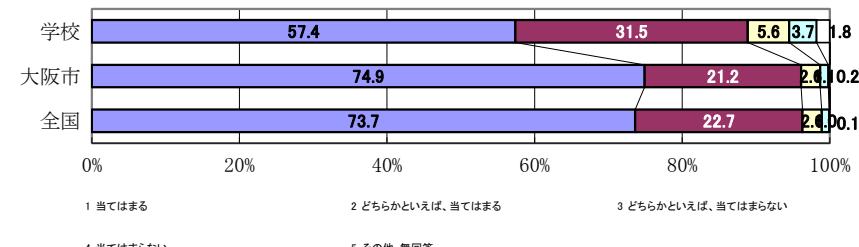
10

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



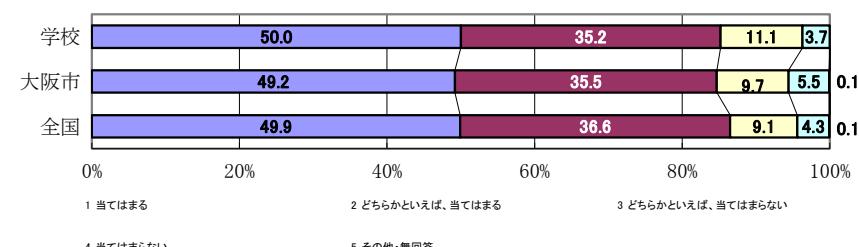
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



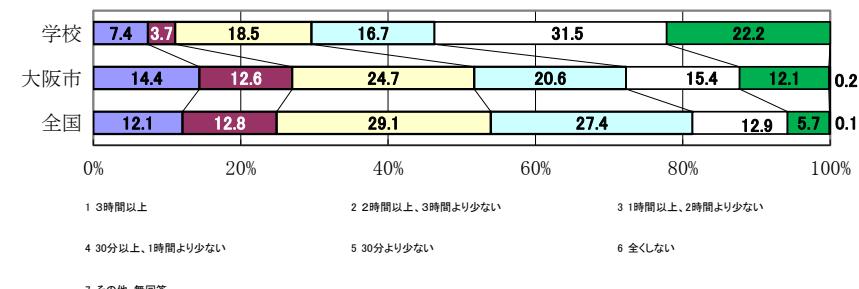
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



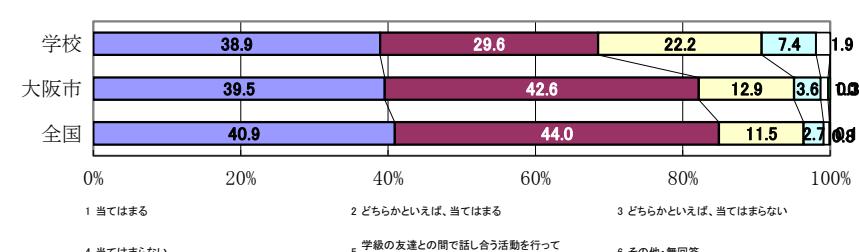
17

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができていますか



学校質問より

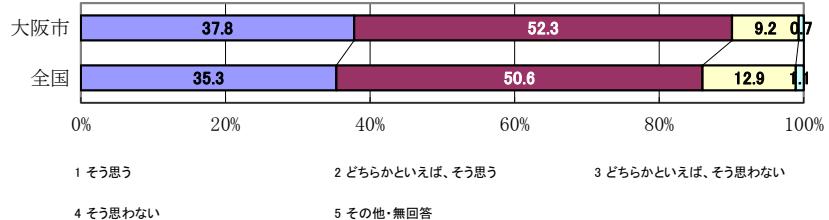
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

8

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ちていると思いますか

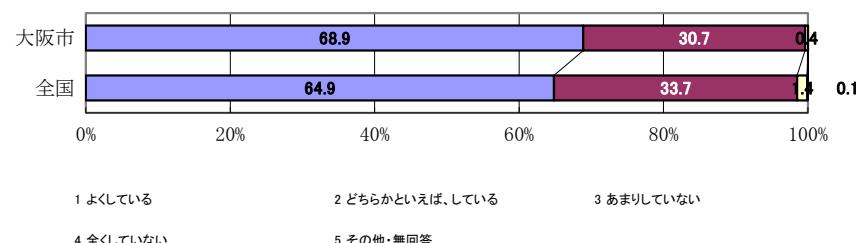
学校 「どちらかといえば、そう思わない」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

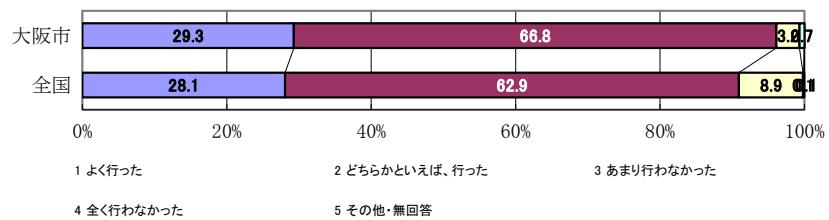
学校 「よくしている」を選択



30

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか

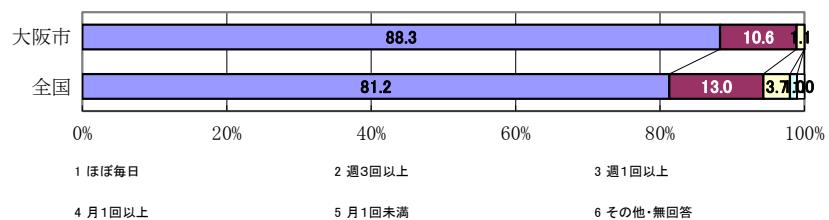
学校 「よく行った」を選択



55

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択



61

教職員と調査対象学年の児童がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校 「週3回以上」を選択

